



カフェのような相談オープンスペース。対面、並んで…ちょっとした相談や、地域の方や関係機関の方が気軽に来所頂ける雰囲気になっています。この空間♪♪何か聴こえてきます…♪♪カフェのようなミュージック♪♪皆さんは<マスク効果>って知っていますか？環境音とBGMなどの同じ周波数帯の音が相殺されることで雑音が減る現象です。この効果によって、単調作業や考える作業を問わず、集中力が高まりやすくなり、適度なミュージック音で、相談などでも逆にしっかりお話しができてたりします。喫茶店やカフェなどでミュージックが気にならずに話しが弾んだりするのもこれですね。苦手な人がいれば消す事も想定していますが、今の所は好評なようです。

また、室内にもこだわりがあって、おいてあるものは出来る限り簡単に動かせるものばかりにしています。全て動かすと部屋をまるまる大きく使う事も可能にしました。TVもあるので、オリンピック観戦や野球観戦等イベントにも使えたらなとかも…。さて、どんな事をしようかとワクワクしています。



もちろん個人情報に配慮した防音のお部屋もしっかり用意しておりますので、じっくりと相談したい時やケース会議などにも利用できます。入口も車椅子が通れる大きな幅にしております。

開所して、1週間(この記事を書いている日ですが…)と間もないですが、早速、今まで施設の中にあつた時にはなかった「そのパンフレットもらっていい？」とか「相談したいんですが…」とふらっと立ち寄られる方が何人か来られています。また、地域の事業所の方も急に来所し、ケースについて相談をしてこられ、そのまま、すぐに支援チームを集めてケース会議…という事もありました。近所の方もふらっとよって下さ

り「何ができたのかなと思ってきたんや、ほんで、にいちちゃん、(看板の)区がさかさまになってんで…」と付け方を失敗して看板の文字がさかさまになっていた事も指摘してくれました(^\_^;)

この移転に際して最も大事にしたかったのは、スタッフがわくわく楽しいと思える事業所という事です。利用者第一じゃないの…?と言われるかもしれませんが、いえ、断言します。まずはスタッフが仕事を楽しむ事！これが一番大事です。スタッフがワクワク楽しまなくて良い支援ができるわけがない。というのが私の持論です。私達の仕事において一番の目標は、利用者の皆さんが「生きてるって楽しい」「生きててよかった」という瞬間がたくさんあって、最後の瞬間に「ああいい人生だった」と思えるそんな人生を送る。そこに関わっていく事だと思っています。だからこそ、スタッフが「こんなことしたいなあ」「こんなこと出来ないかなあ」とワクワクし、楽しみ、粹にとらわれず自由な発想で仕事に取り組んで欲しいし、自分もそうでありたいと思います。そのためにセンター職員は基より利用者の皆さん、地域の皆さん、地域の支援者の方にこのスペースを使ってもらえたらと思っています。

### 公開セミナー2024「性教育～支援学校のとりくみ～」を開催しました

東成育成園支部 中島 由紀子

6月22日(土)社会福祉センターにて「支援が必要な子どもへの『性』についての伝え方」をテーマに、大阪府立富田林支援学校の瀧谷俊也先生にお話しいただきました。瀧谷先生は大阪府教育委員会作成資料「性に関する指導」の作成委員でいらっしゃいます。保護者の方の他に支援学校の先生、放課後等デイサービスの職員の方が参加されました。

平成27年頃は支援学校において積極的な性教育は行われておらず、指導の重要性を痛感された先生は、小中高の学部ごとに指導計画を作成、職員研修を実施されました。近年、障がいのある子ども達もインターネットで性に関する情報を目にする機会が多く、正しい指導を求める保護者と、反対に「うちには必要ない」と考える保護者もいる中、児童生徒の発達段階を踏まえ、保護者の理解と協力を得ながら、生命の尊重・望ましい人間関係を築く力を育成することを目指しておられます。

子ども達に伝える方法として、発達障がいのある人の暮らしをサポートする「視覚支援」のツールを手が